

寄附の申込み方法について



1口 5,000円 (何口でも可)

■オンラインによるご寄附のお申し込み

山口大学共同獣医学部ホームページの「本学部への寄附 (獣医学科創立80周年記念事業)」のバナーからWebフォームによりお申し込みいただけます。

共同獣医学部ホームページのURLは
<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/vet/>

■お振り込みによるご寄附のお申し込み

裏面に掲載しております「本事業事務局」にご連絡いただきましたら、所定の「払込取扱票」をお送りさせていただきます。

ご寄附への顕彰

ご寄附をいただいた個人及び法人の方々のご支援に感謝し、以下の顕彰をご用意しております。

※ご芳名録 (匿名希望者を除く) を獣医学科創立80周年記念事業ホームページに掲載させていただくほか、獣医学科の歴史に末永く留めさせていただきます。

※2口 (10,000円) 以上のご寄附を頂いた方々には、後日、『山口大学獣医学科80周年記念冊子』をお送りします。

個人からのご寄附

- 2口以上：80周年記念誌返礼、
ホームページへのご芳名掲載、
寄附者ご芳名の記念誌折り込みへの掲載
- 6口以上：上記に加えて銘板へご芳名を記載
- 100口以上：上記に加えて感謝状と
令和7年度ホームカミングデイご招待

企業・団体からのご寄附 (動物病院含む)

- 20口未満：ホームページへのご芳名掲載、
寄附者ご芳名の記念誌折り込みへの掲載
- 20口以上：上記に加えホームページへのバナー掲載
- 100口以上：上記に加えて感謝状と
令和7年度ホームカミングデイご招待

創立80周年記念寄附金事業

<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/vet/80th/contribution.html>



現在そして未来へ



問い合わせ先

山口大学獣医学科創立80周年記念事業事務局

〒753-8515 山口県山口市吉田1677-1

山口大学共同獣医学部内

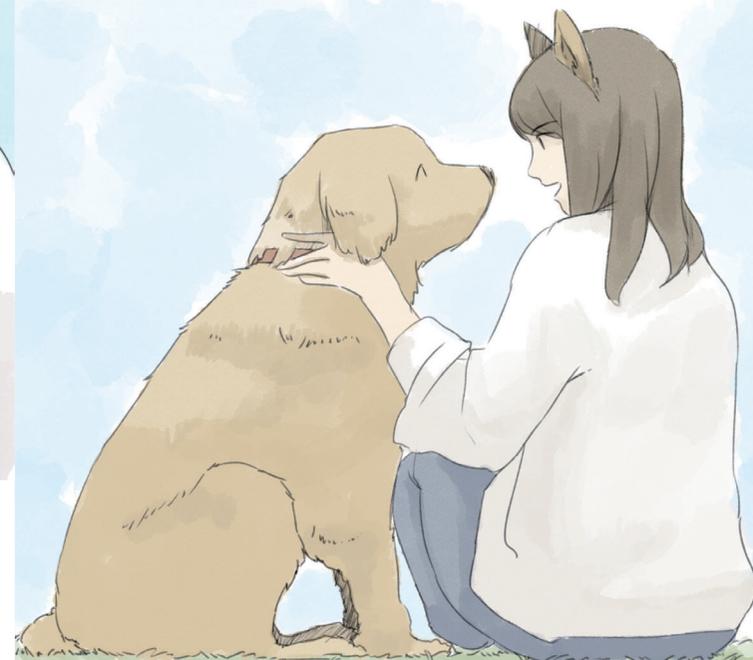
Tel:083-933-5942 / E-mail:ve100@yamaguchi-u.ac.jp



SINCE 1944

DEPARTMENT OF VETERINARY MEDICINE
YAMAGUCHI UNIVERSITY

獣医科学学生の教育活動を支援する
基金へのご寄附のお願い



挑戦し続ける未来の獣医師のために

山口大学共同獣医学部は、1944年に創設された山口高等獣医学校を源流としています。山口大学農学部獣医学科へ移行後、2012年に山口大学8番目の学部として共同獣医学部が設置されました。創設時には地元の山口県と小郡町の多大なるご支援があったことが、当時の資料に残されています。地元の方々の獣医学教育に対する高い理想と熱意に敬意と感謝の意を表したいと思います。創設から今日に至るまで80年が過ぎようとしていますが、社会の変革に伴い、獣医師の活動範囲も拡大しています。獣医師に対する広範な社会的ニーズに的確に応えるために、教育の質向上を目指した改革を継続的に行っています。



本学部は鹿児島大学共同獣医学部と連携し、相互補完型の教育を実践しています。「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム」をベースに欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）が求める教育内容を取り入れ、2019年にEAEVEによる教育課程の評価を受審し、欧州水準の獣医学教育課程であることの認証を取得しています。2021年から大学の世界展開力強化事業「アジア・アフリカにおけるOne Health問題の解決に向けた感染症対策を担う獣医師育成プログラム」が開始され、獣医学教育の国際的ネットワークを築いています。本学部にOne Welfare教育研究センターを設置し、人と動物のウェルビーイングに関する新たな取り組みを推進しています。

2024年には創設80周年記念事業として、将来を担う獣医学科学生の教育・研究活動を支援するための基金を創設することにより、次世代の人材育成への取組みを実現し、さらなる飛躍をはかりたいと考えております。この趣旨にご賛同いただき、基金へのご寄附を何卒よろしくお願い申し上げます。

共同獣医学部長 度会雅久

学生教育研究活動支援

共同獣医学部では、国際認証を取得するために、人数、質ともに高い水準が求められる教員体制の整備、臨床実習や病理学実習等のハンズオン実習の充実、そして国際水準の獣医師を育てるための教育カリキュラムの改善および自律的な教育の質保証を日々行っています。

外部連携機関の協力で行う伴侶動物一時診療や大動物の臨床実習は時間を大幅に増やしました。また、細菌感染症や畜産・水産の生産現場での抗菌薬使用による薬剤耐性病原体などが問題になるなか、公衆衛生学の学外実習にも力を入れています。学内施設では、細菌・ウイルスなどの微生物・病原体等を安全に取り扱う実践的教育研究施設を整備し、全国の大学で最高水準の実習施設となっています。

現在、外部機関での実習の一部は、学生が自己負担（宿泊費/交通費）で参加しています。今後も学生が実習できる連携機関の充実を図るとともに、金銭負担を軽減して安心して実習できる環境をつくり、将来を担う優秀な獣医師を育成するためにご支援下さい。

白衣着衣式



動物感染症総合実習



参加型臨床・公衆衛生実習



国際交流推進支援

人や動物、環境の衛生に関わる者が連携して取り組むOne Health（ワンヘルス）の考え方が世界に広がり、その中で獣医学・医学の横断的な連携などが求められ、獣医師の活躍の場はさらに広がっています。

動物福祉に関する教育などへさらに力を入れるなど改善を続けるとともに、連携協議会を設けているインドネシアの獣医系大学の若手研究者育成プログラムを進展させます。また、ケニア・ナイロビ大学を中心としたアフリカの獣医学系大学と連携し感染症対策を担う獣医師育成プログラムも進展させてまいります。

今後は、EAEVE認証取得で培った獣医学教育改善の手法を、国内外の他の獣医系教育機関にも浸透させ、東南アジア・アフリカ地域の獣医学教育の発展とグローバルに活躍する獣医師養成を目指します。

学生の東南アジア・アフリカへの派遣、国際学会での発表を推奨しグローバルに活躍する獣医師を目指す学生の活動をご支援下さい。

ケニア・ナイロビ大学での派遣実習



国際学会での発表
(デンマーク)

